

平成28年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒガチ ケンイチロウ
氏名 樋口 謙一郎

研究期間 平成28年度

研究課題名 北米における言語権の理解と実際

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口謙一郎	文化情報	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究では、北米における言語権 (linguistic rights) 関連の法制度整備状況および実践状況 (外国語教育や障害者対応、言語景観など) を考察する。特に、米国・カナダの都市部における移民、外国人住民、方言使用者、障害者、LGBT (性的少数者) などの言語権保障状況の具体的な把握を行う。今日の北米社会がかかえる言語的諸問題の背景にある歴史的・社会構造的要素 (国民国家観、言語観、ジェンダーや障害に対する認識など) が、言語権の確立といかなる関連を持つか検討することにより、諸外国との比較の素地の確立も図る。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

第1に、近年における北米の言語権概念の理解に関する基本文献の収集・分析を行い、欧米の伝統的な言語権理解が近年いかなる変容を遂げているのか、文献上での確認・検討を行う。

第2に、米ニューヨークおよびカナダ・トロントのエスニック・コミュニティ、障害者関連施設の現地調査を行い、①公共施設における言語サービス、②コミュニティメディア、③言語景観、④観光情報——の目的・対象および情報の質と量がいかなる変化を遂げているのかを検討する。

第3に、上記の調査結果を、応募者の既往研究である、北米のエスニック・コミュニティのあり方の「変遷」とコミュニケーションへの影響についての研究成果も活用しつつ、北米における言語権理解・実践の可能性と問題点を分析する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

言語権に関する主要な先行研究においては、言語権の理論的研究や啓蒙的紹介が中心となっており、いわば「理論史」的な知的蓄積は充実しつつある一方、都市社会におけるコミュニケーションの実態との関連や、現実社会における具体的な葛藤に、言語政策的な観点から目を向けた研究は必ずしも多いとはいえない。しかし、もし言語権が現実レベルでより重視されるべきであると考えるのであれば、多文化社会におけるエスニック・コミュニティの変遷や、障害者、LGBTの権利拡大の問題との同時並行的な議論が不可欠である。本研究は、これらの問題を数多くかかえる多文化都市における言語権の実践・実態を把握することを目指した。

そこで、2016年夏、北米のエスニック・コミュニティ、特にニューヨークのマンハッタンの各移民コミュニティのほか、フラッシング、ジャクソン・ハイツ、グリーンポイント、ノストランド、カナダ・トロントなどにおいて公共施設、医療施設などに対する調査を行うとともに、移民教育従事者などとの研究討論、コミュニティメディア情報（特に非英語情報）の収集・分析を行った。言語権が「擁護されるべき個人の権利」としてだけでなく、社会あるいは具体的な都市における言語葛藤の問題としても深められるべき問題であることを確認した。その詳細については、現在纏めているところであり、今後、論文、学会発表などにより公表していく。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①言語権	②北米	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究の成果は近々論文や国際学会発表などにより公表していく。また、文化情報学部の授業（「国際関係論」「グローバル社会論」など）で関連テーマを扱うべく準備を進めている。